

活動の事例集

小学校



1

花を育てて募金

横浜市立倉田小学校

報告者 5年 須藤瑛子 小野友梨恵

右の図のように6か月間、総合的な学習の時間も使い一生けん命みんなと協力し、たくさんの花を育ててきました。

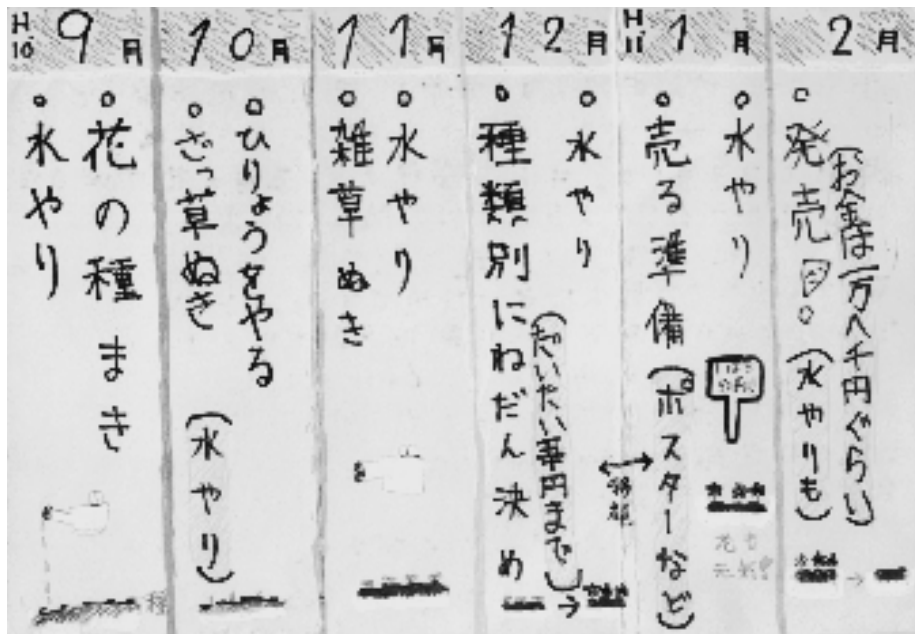
時には苦しく、時にはうれしく、また悲しい場面もありました。そんな苦勞の末、私たちの花が咲きました。そのうれしさは今でも心に残っています。

そんな花を地域の人たちに売りました。買ってくださった方々は「きれいな花ですね」とか「こんなすてきな花をあなたたち5年生が育てたの」とびっくりされている方もいらっしゃいました。

花が全部売れたときは、すごくうれしかったです。

このような活動でかせいだお金を恵まれない子どもたちのために使ってください。

私たちは、またがんばります。



2

福祉委員会が張り切って

滋賀県甲賀郡甲西町立岩根小学校

報告者 福祉委員会 中村志帆子 小川恵梨香

福祉委員会の私たちが、まずユニセフについて勉強をしました。そして、ユニセフについてわかったことを劇にしたり、ビデオ放送をしたりして全校のみんなにユニセフの活動やユニセフ募金を待っている人たちのことを知ってもらいました。

そして、何度か話し合っ、リサイク



ルにもなるので、バザーをしようということになりました。

ユニセフでは100円でできることがいっぱいあります。そのことをみんなに知ってもらって、なっとくして品物を出してもらったので、お手紙を出したり、集会などのときいっぱい説明したりしました。たくさん集まったのですごく安い値段になりました。これだけ集まったと思うと、すごいことだなあと感じました。

また、「岩根ふれあい祭り」というPTAの人も来てくださる日にバザーもしました。おぜいの人たちがユニセフバザーに来て買ってくださいました。バザーのとき、ユニセフ募金箱をおきました。大



勢の人が募金してくださいました。おつりを入れてくれたかたもおられました。

少しでも世界の子どもたちに役立てていただけると嬉しいです。

今後もみんなと話し合っ、少しでも役立つようなことを考え、協力していこうと思っています。

3

ゲストティーチャーを招いて(日本ユニセフ協会水戸の会)

茨城県ひたちなか市立中根小学校

報告者 武士雅江先生

平成14年度から始まる「総合的な学習の時間」に向けて本校でも試行的に実践しています。私の担任する6年でも昨年度の国際交流から一歩進め、現実の世界に目を向けるためにユニセフの活動へと進んできました。

日本ユニセフ協会水戸の会長様をはじめ6名の会員をゲスト・ティーチャーとして「調べ学習」に参加していただきました。



「教育・水と衛生・栄養・保健・緊急支援・特に厳しい状況にある子どもたちを守る」の6つのグループにお一人ずつ入っていただき、子どもたちが調べることわからないことなどに答えていただきました。

調べ学習が終わり、子どもたちの感想、発表のあと、会長様から中国でのボランティアのようすをスライドを使ってお話していただきました。

その後、子どもたちは調べたことを絵



本・紙しばい・新聞・OHP等にまとめ発表できるように準備しました。

発表会には保護者も招きました。パビリオン形式で発表し、わからないことを質問しあいました。

学習後の子どもたちは、生きることの過酷さ、命を維持することの大変さに気づき、同じ年代の子どもとして自分を振り返り、何かしたいという気持ちを持ち、中根小学校でもユニセフ募金活動を進めようと計画しています。

4

6年竹組の夢

佐賀県佐賀郡川副町立西川副小学校

報告者 富永和重先生

「野菜、くだもの、花などを育てて売りたい。売り上げ金を募金したり、世のために役立つことに使いたい。」

これが6年竹組の夢です。平成11年度佐賀県子ども夢かなえ隊事業に参加しました。

隊員のサポートを受けながら、6月頃から全員でさつまいも、かぼちゃ、パンジー

などを育てました。休みの日や夏休み、学校帰りに草むしりや水やりをしたり、収穫のときは、3日間もかけていも掘り、洗い、干し、袋に詰め、みんなで協力しましたが、とても大変でした。

最後の朝市での野菜売りについて子どもの作文をお読みください。



朝市

田中 美奈子

11月7日、私たち六年竹組は、川副農協で開かれる朝市で、さつまいも、かぼちゃ、かりん、パンジーを売る。朝がやってきた。普通なら眠いのになぜか眠たくない。まだ、外は真っ暗だ。星も出ていた。

川副農協について野菜をならべる。「こんなにたくさんいもが売れるわけない。」そう思っている間に、六竹のみんなが集まってきた。「いらっしやいませ」「さつまいもはいかがですか」お客さんはたくさん来てくれた。「なんか、私って売るのが上手かも」と何となく思った。

かぼちゃ、パンジーが完売した。でも、かりん一袋とさつまいも一袋がまだ残っている。そしたら、ある友だちがさつまいもを持って行って「あと一つのさつまいも。いかがですか」と言い出した。おじさんが買ってくれた。自然に拍手が出た。最後のかりんが売れたときは、涙が出そうになるくらいうれしかった。そしてみんなはパンザイをした。「パンザーイ、パンザーイ、パンザーイ」

完売した時刻は7時ごろ。たった1時間ですべて売り切れた。ほんとうは泣きたい程うれしかった。売れた金額は五万二千二百六十円だった。

ユニセフ学校募金に募金する時の喜びが、今にも伝わりそうだ。



5

湖北小まつりで 千葉県我孫子市立湖北小学校

報告者 校長 小島一夫 教頭 大久保俊輝

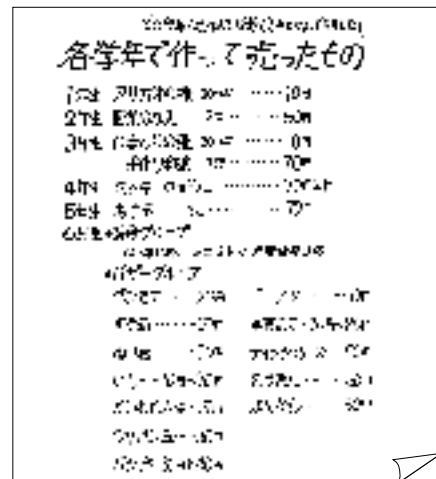
昨年度の湖北小まつりに児童会が初めて取り組んだユニセフ活動では、手作り雑きんや手作り石鹸を販売して集まった収益金を日本ユニセフ協会に届けました。

今年は、学年ごとのさまざまな取り組みが行われ、1年生は朝顔の種、2年生は野菜の苗、3年生はひまわりの種、4年生はミッキーの帽子、5年生はお手玉、そして6年生はバザーグループと募金グループに別れて活動しました。湖北駅頭で募金活動を児童と教員で5日間続け、39,103円の善意をいただきました。

湖北小まつり当日は、さまざまな取り

組みで作り上げた品物を販売しました。全校をあげての取り組みが実って、今年の総額は165,896円となり昨年の4倍となりました。

それにもまして校長がかねがね申している「安易な募金意識であってはならない。何のためにするか、今自分たちに何ができるか、来自分たちは何をやるかなどの指標を持たせることが肝要である」ということが、子どもたちの日頃の行動に現れてきたことがうれしい。感想文を同封しますので、そこから読み取りください。



協力ということ

5年 加藤桃子

5年生では、お手玉を売りました。私たちがユニセフ活動でお手玉を売ろうと考えたのは総合的な学習の時間にお年寄りにいろいろな遊び道具を教してもらい、その中でお手玉を選びました。みんな気合を入れて作りました。できあがったお手玉を三つ一組にし、ふくろに入れ、きれいなリボンで結びました。

「いらっしゃいませ。いらっしゃいませ。かわいいお手玉どうですか。」買いに来たお客様がうれしそうにお手玉を手に取りました。1時間たないうちにすべて売れました。私はなみだが出そうなくらいうれしくてたまりませんでした。こんなに売れたのも宣伝活動やほかにがんばってくれた人たちのおかげかな、作っているときのみんなの気持ちが買ってくれる人に強く伝わったからかなと思いました。

世界には小学生なのに水くみや工場で働いたりして学校にいけない子どもがたくさんいるそうです。そのような子どもたちが学校に行って勉強できるように、また、来年もがんばってユニセフ活動を続けていきたいです。

ユニセフ募金活動をして

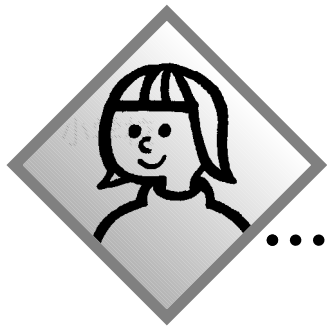
6年 猿渡綾乃

私はユニセフ募金と決まったとき、とても気楽な気持ちでした。それは、たぶん世界の子どもたちのことを知らなかったからだと思います。でも、活動が進むにつれて、だんだん世界の子どもたちがどんなに困っているかが分かってきました。私がかんげれば何百人もの子どもたちが救えるんだと思いました。

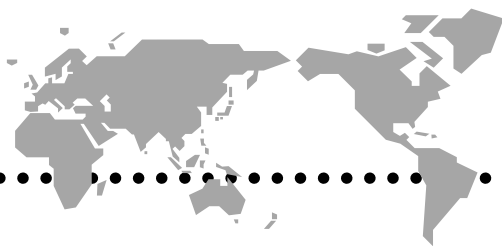
まず、人がいっぱい集まる駅とコンビニで一週間募金をすることにしました。コンビニには募金箱を置き、駅で私たちが活動します。駅で配るチラシ、新聞を係の人が作ります。

次に小学校に子どものいない人にも募金活動のことも知ってもらうために各地区の自治会長さんにたのんでチラシを回らん板で回してもらいました。ほかに校内放送で呼びかけたり、近所のお祭りでも募金活動をしました。駅での活動当日、私は最初だから千円くらいだと思っていたけど2千円ぐらい集まりました。二日目は私の当番日で配ったチラシを捨てる人がいるんじゃないかと不安な気持ちでした。だけど、チラシを捨てる人は一人もいません。すごく急いでいる人も高校生も立ち止まって「がんばってね」と言って募金をしてくれます。そして一週間で集まった金額は6万円以上でした。自分たちの力でこんなに集まったなんて信じられませんでした。だけど、一番感謝したい人は募金をしてくれた人たちです。私が大きくなって駅などでユニセフ等の募金をしていたら、やはりこの募金に協力してくれた人たちのようにやさしい気持ちで協力したいと思います。





小学校



1

武蔵丘宣言

東京都世田谷区立武蔵丘小学校

報告者 武蔵丘小学校児童会代表委員会

私たち代表委員会では、世界の友達の苦しみや悲しみをみんなに伝え、ユニセフ募金に協力するために、毎年ユニセフ集会を開いています。今年の集会では、地震などの災害によって被害を受けた世界の友達のこと、少年兵のこと、ストリートチルドレンなどのことを調べ、知らせました。そして最後に「武蔵丘宣言」を発表しました。

「武蔵丘宣言」とは、いろいろな被害を受けた子どもたちに、一人ではない、私たちがいるということ、どんな子どもでも平等に平和に、そして幸せに生きる権利があることを伝えるために世界に発し

たものです。

また、少しでも多く世界の子どもたちのようすを分かってもらうために新聞の

切り抜きを校内に張り出しました。

ユニセフ集会で発表した「武蔵丘宣言」をぜひ読んでください。

武蔵丘宣言

（世界中の大人たちへ）

戦争はやめて下さい。私たち子どもたちは銃を持って戦つて遊びたいのです。鉛筆を持って学びたいのです。地面に、地雷はいりません。作物を植え、花の種をまきたいのです。話し合ってください。お腹を空かして死んでいく子どもがいらないように。家族といっしょに暮らせるように。泥棒をしないで暮らせるように。学校で、文字や計算の仕方を学べるように。病気になるたらお医者さんに診てもらったり、薬が飲めるように。

教えてください。世界でおきている悲しみや苦しみを、私たちが子どもにも分かるように伝えてください。世界の子どものための幸せのために、戦っている人たちのことや活動内容を教えてください。

2

「この気持ちを世界へ」を歌いユニセフ募金

愛知県知多郡美浜町立布土小学校

報告者 榊原 英記 先生

私ども布土小学校6年生は「総合的な学習の時間」において国際理解学習に取り組んできた。1学期には、自分の興味を持った国について、人口・首都・面積・民族・国旗などを調査する活動をおこない、2学期には、外国の料理・スポーツ・遊びなど児童がみずから考え、主体的に取り組む活動を通して「学び方」を身につけさせたいと考えた。

世界の国々についての理解が深まってきたところで、世界にある戦争や対立・開発途上国の飢餓の現実などを子どもたちに伝え、その意義を十分理解させた上で、ユニセフ募金に取り組ませようとした。

学習発表会当日は、国際理解の学習について学んだことを劇にして体育館のス



テージで発表した。劇の後はユニセフの精神を表すために担当教師が自作した歌「この気持ちを世界へ」を全員で合唱し、ユニセフ募金に対する意識の高揚を図った。その後、会場の保護者や地域の人たちにもユニセフ募金の呼びかけをおこなった。



3 「なかよしルーム」でユニセフ展 千葉県八千代市立勝田台小学校

報告者 勝田台小学校代表委員会

勝田台小学校では、ユニセフ募金活動を毎年おこなっています。今回は代表委員会（児童会）で話し合った結果、ベトナム指定募金をおこなうことになりました。ユニセフでは、少数民族の子どもたちの教育支援をしています。勝田台小学校としてもこのプロジェクトに参加してひとりでも多くの子どもたちが学校に行けるよう応援したいと思っていました。そして、平成11年12月13日から15日までの3日間、誰でも入れる「なかよしルーム」に日本ユニセフ協会から借りたパネルを展示したり、自分たちで作ったポスター掲示などのユニセフ展を開きました。そして、同じ3日間の朝の会（8時35分から45分）に代表委員会児童が各学級に募金を受けとりに行きました。ユニセフ展の後には全校生徒を対象にアンケートをとりました。

本ユニセフ協会からとりよせたパネルなどで分かったことやびっくりしたことがたくさんありました。

子どもたちの力で子どもたちを助けられるのはとてもうれしいことだと思います。
勝田台小学校代表委員会 石井那津子

平成11年度ユニセフ展・アンケート集計結果

ユニセフ展でユニセフの活動や世界の子どもたちのことがわかりましたか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全 校
よくわかった	25	48	47	61	61	66	308
だいたいわかった	47	30	22	24	13	21	157
よくわからない	11	3	1	0	1	0	16

(単位・人)

来年もユニセフ展があるといいと思いますか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全 校
あったほうがいい	61	67	60	71	73	77	409
どちらでもいい	20	13	10	13	2	10	68
やらなくていい	2	1	0	1	0	0	4

(単位・人)

自分の考えと同じものを選んで下さい。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全 校
もっとゆっくり写真を見たい	59	48	42	40	37	47	273
ユニセフ協会の人の話が聞きたい	63	47	30	25	46	36	247
いろいろな種類のビデオが見たい	80	56	43	53	48	51	331
もっとユニセフクイズをやりたい	64	47	35	34	31	28	239
ユニセフについてもっと知りたい	70	53	46	42	44	55	310
世界の子どもをもっと知りたい	70	60	45	37	54	66	332
ユニセフ募金の使い方を知りたい	73	43	33	37	36	46	268

(単位・人)

私たちの小学校では、ユニセフ展をおこない、全校みんなにユニセフの活動や日本の子どもたちとまったく違う生活をしている世界の子どもたちのことを知ってもらいました。自分で作った資料や日

4 全校集会でユニセフ学習発表 東京都文京区立鶯籠町小学校

報告者 寺岡 昭子 先生

本校は児童数わずか115名という小規模学校です。毎年各種の募金活動をおこなっても集まる募金額は頭打ちの状態でした。この現状を変えようとするべく、子どもたちの心に何かを訴えかけながら募金活動をおこない、募金額の増加を目指しました。

5年生ということで児童会の中心になって仕事をやる立場でした。校門に立って自ら作った募金箱を使いユニセフ募金を呼びかけることになりましたが、その前に全校集会で開発途上国の現状を発表すればより募金が集まるのではないかと考えました。

そこで平成12年7月1日に5年1組が全



校集会を開きました。児童自らがマイクをとり、ポスターやグラフを使いながら、栄養や予防接種、きれいな水がいかに開発途上国の子どもにとって大切か訴えました。

目標額は一人300円、全額で3万円を目指しましたが、それを大幅に上回る



52,634円の募金が集まりました。子どもたちは大喜びでした。1年生も、「これでたくさんの人が助かるんだね」といって募金箱にお金を入れる姿を見て、子どもたちの力ってすごいな、と思い感動しました。